夢洲で確認した注目すべき野鳥たち（中面にも掲載）

これらの生きものはおもに夢洲2区の池・湿地・ヨシ原にいました。

掲載されている写真はすべて、大阪自然環境保全協会が、この期間、夢洲で実際に撮影したものです。

「夢洲Photo Album ＃5　夢洲にふたたび湿地を
編集：　公益社団法人　大阪自然環境保全協会
発行：　2023年11月15日　2000部　AMネット
連絡先：06-⑥242-8720　yumeshima@nature.or.jp

2023年度環境再生保全機構
地球環境基金の助成で制作しています。
助成名「SDGs万博市民アクション」

Yumeshima Photo Alubum　2019-2023

OSAKAベイエリアに
いのち輝く自然を取り戻すために

夢洲に湿地の復活を

夢洲にはさまざまな自然環境が生まれ、そして、その環境に応じた生きものたちが集まり、多様な生態系をつくっていました。私たちの3年余の調査で、鳥類113種。レッドリスト（絶滅の恐れのある生物のリスト）掲載種だけでも51種確認しました。それらの多くは、夢洲の池や湿地でみられました。

渡り鳥のシギ・チドリ・カモなどは、シベリアのほうから南半球まで国境をまたいで、何千キロもの旅をします。その旅の中継地は、命をつないでいくために大変重要です。しかしその環境がどんどん失われたため、21世紀になってからの20年間で、日本に飛来するシギ・チドリの数は半減、オーストラリアでは7割以上減少しました。今後さらに中継地が減れば、渡り鳥の絶滅が心配されます。

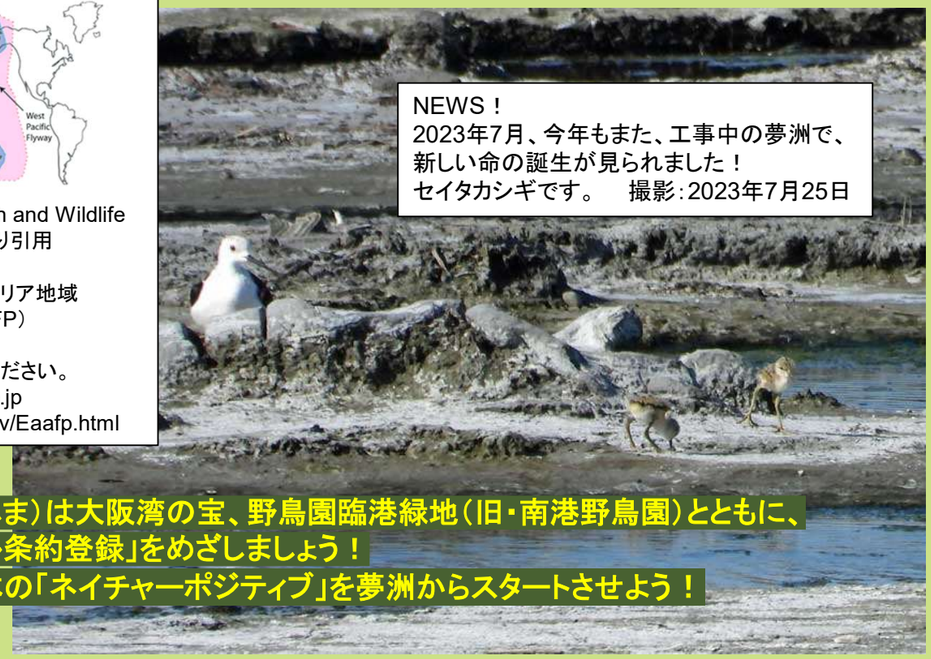
渡り鳥の重要な中継地を守るため、ルート上の各国が「東アジア・オーストラリア地域フライウェイ（EAAFP）」として国際協力しています。日本は重要生息地34カ所を登録。夢洲の隣の南港野鳥園も参加しています。南港野鳥園と夢洲は、まさに二つ合わせて「大阪の生物多様性ホットスポットAランク」、鳥たちにとっては大きな一つの「サービスエリア」です。コアジサシやセイタカシギ、小鳥たちにとっては、繁殖と子育ての場所でもあります。夢洲の広くて豊かなこの環境がなくなれば、どの鳥たちも数を減らさざるをえなくなります。夢洲は、生物多様性にとって、なくてはならない場所なのです。

2022年12月、生物多様性の新しい目標である昆明・モントリオール生物多様性枠組みが採択されました。そこには、海・陸のそれぞれ30%を保全することが決められました。埋立地として海の自然を奪った夢洲ですが、もう一度自然環境に戻すべきではないでしょうか。夢洲に湿地を復活させ、それを大阪湾岸の自然回復への足掛かりとするよう、強く願っています。

大阪自然環境保全協会

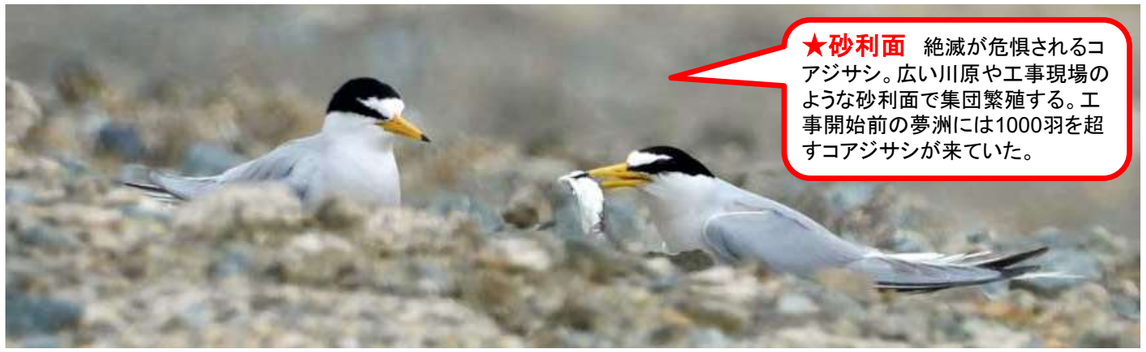
上の図は　U.S. Fish and Wildlife Service/Alaska　より引用

東アジア・オーストラリア地域
フライウェイ（EAAFP）
詳しくは
環境省HPをごらんください。
https://www.env.go.jp
/nature/ramsar/conv/Eaafp.html



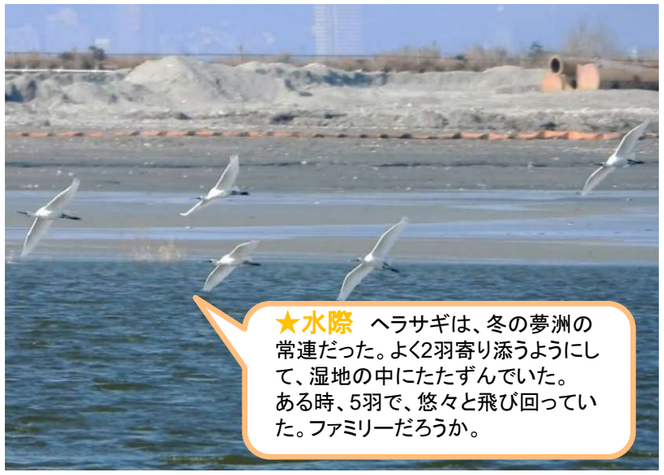
NEWS！
2023年7月、今年もまた、工事中の夢洲で、
新しい命の誕生が見られました！
セイタカシギです。　撮影：2023年7月25日

夢洲（ゆめしま）は大阪湾の宝、野鳥園臨港緑地（旧・南港野鳥園）とともに、
「ラムサール条約登録」をめざしましょう！
そして、日本の「ネイチャーポジティブ」を夢洲からスタートさせよう！



★砂利面　絶滅が危惧されるコアジサシ。広い川原や工事現場のような砂利面で集団繁殖する。工事開始前の夢洲には1000羽を超すコアジサシが来ていた。

★水ぎわ　湿地には、たくさんのシギ・チドリが、群れをなして訪れる。ハマシギは、時にはなん百という単位の群れが、いくつも、飛び回っては場所を変えて舞い降り、また餌を探す。別の種のシギ・チドリがまざっていることも多い。



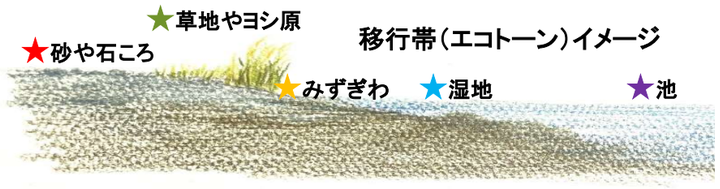
★水際　ヘラサギは、冬の夢洲の常連だった。よく2羽寄り添うようにして、湿地の中にたたずんでいた。ある時、5羽で、悠々と飛び回っていた。ファミリーだろうか。

いろいろな自然環境が　あるからこそ
多様な生きものたちが　生きていける
＝これらの風景はかつての夢洲です＝

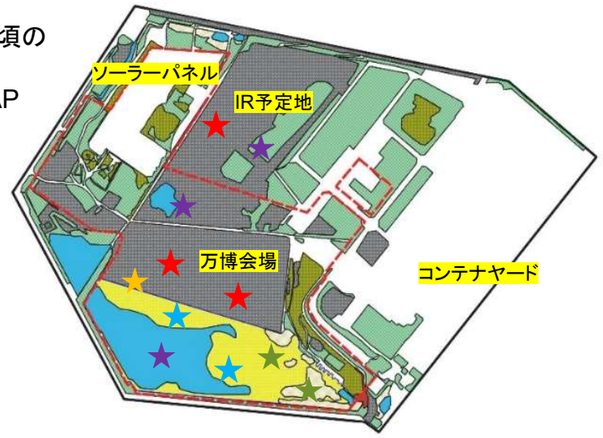
★池　IR予定地（夢洲3区）にあった雨水のたまった池には、ホシハジロが、5000羽以上、滞在していた。この数はラムサール条約に登録できる3000羽をはるかに超える。このカモは比較的水深のある所を好む。

★池　コントラストの美しい大きなツクシガモは、毎年100羽以上飛来していた。これは本州最大の飛来数。比較的浅い池を好む。

夢洲を特徴づける代表的な野鳥は、このような環境に生息しています。同じ★マークをごらんください。



2021年頃の夢洲の環境MAP



大阪湾沿岸の自然は、近世から現代にわたる自然海岸の開発により、失われ続けてきました。

しかし 大阪湾の人工島「夢洲」では、長年にわたる穏やかな埋め立ての過程で土地に草が生え、昆虫が棲み、鳥が集い、多様な生態系が生まれてきていました。この生物多様性豊かな環境は、大阪にできた「たからもの」です。この生物多様性は、池・湿地・ヨシ原によって成立していました。ですが、2025年万博のために急速に整地が進み、すでにこれらは無くなっています。

万博が終わった後、建造物は完全に撤去されることになっています。その後の予定は定まっていません。

私たちは、もう一度ここに多様な自然環境を復元し、この写真のような環境を取り戻し、日本を通る「東アジア・オーストラリア地域フライウェイ」上の好適な渡り鳥渡来地として再生することを提唱しています。

写真はすべて2019年から2023年に夢洲現地で、
大阪自然環境保全協会が撮影したものです。

★湿地　「貴婦人」と呼ばれる美しいセイタカシギは、夢洲で複数つがいが繁殖している。2023年夏、工事が進み、狭くなった湿地でも繁殖。夢洲はセイタカシギにとって、日本で数か所の貴重な繁殖場所の一つになっている。

★草地やヨシ原
草原やヨシ原は、小さな鳥たちにとっては、貴重な繁殖・子育ての場所だ。近年、そんな場所が少なくなり、今まで身近に当たり前にいた種が、絶滅に瀕している。